

地域資源、再生可能エネルギー、 廃校等の利活用などの先進地

那珂川町 を視察

平成28年1月25日(月)

産業建設観光常任委員会



所管事務調査



那珂川町の取り組みについて説明

視察目的

全国的に少子化等で児童生徒数が減少し、多くの廃校が発生しています。

町においても7つの小学校と1つの中学校が廃校となっており、現在、地元の意見を参考に今後の利活用を検討しています。

廃校活用は、行政による活用や民間、地域住民による活用なども進められており、自治体の財政負担も軽減されたいです。

栃木県内でも廃校率が高く廃校活用が進んでいる那珂川町の優良事例を調査しました。

那珂川町の人口は、約1万7500人で、ここ10年間で2400人以上が減少しており10代から40代の人口が少な

い一方、65歳以上の高齢者の割合は、37パーセントを占める典型的な少子化が進んでいます。このままいけば間違いなく限界集落になるものと考えます。

このような過疎地域で、地域産業資源の利活用による地域活性化の取り組みで、労働の場の提供等を行い、交流人口の増加、若年層労働人口の拡充を図っている。

報告

温泉トラフグ養殖生産

温泉トラフグの養殖場の視察を行い、説明を受けました。

6年目のこの事業は地元の温泉の成分を調べた結果海水に似た成分があることが分かり高級魚のトラフグをこの山間部で養殖しようというのが始まりとの説明がありました。

通常、海水での養殖の場合、出荷までに約1年半要するところ、この温泉と人工海水を利用すると成長に優位性があ

り約1年で出荷できます。年間2万5000匹を飼育

し、海水産より味が濃く美味しいと評判です。

平成21年10月操業で、年間売り上げは1億2000万円、視察受け入れは過去3年間で3600人。トラフグのアンテナショップ(扇の館)を経営し、フグ料理が食べられます。

また、養殖フグのエサに毒素はないので、体に蓄積することは無いそうです。しかし、フグなので、調理するには資格が必要です。

廃校旧武茂小学校のプールを利用して稚魚を養殖しています。また、町内の旅館やし屋等がフグの取扱店として消費拡大に貢献しています。



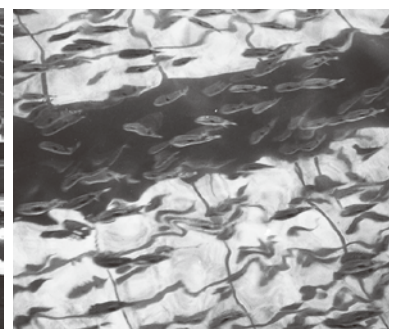
プールで稚魚を養殖



廃熱を利用してトマトの栽培



おいしいトラフグ



稚魚が1万匹